



国労東京支部

2023年2月14日

第37号

国鉄労働組合東京支部機関紙

発行責任者 松田 恭明

編集責任者 佐藤 賢一

エルダー職場からの闘いをつくりだそう 第7回国労池袋地区分会大会開催

1月26日、地本会議室において、第7回国労池袋地区分会定期大会が開催された。来賓にお招きしたユナイテッド闘争団の千田さん、JHU労組の宝地戸さん、上部機関の東京支部鈴木書記長からひと言ずつあいさつをいただき、全体で交流した。全体交流で出された意見を掲載したい。

池袋駅JESS

➡池袋駅も1月末で本体組合員がいなくなる。本体の若い子との交流もなくなってしまう。遺失物を回収の際、話すチャンスはあるがなかなか声をかけることができないまま日々を過ごしてきた。自分の職場で頑張らなければいけないと思いつつ、それが出来ず反省ばかりだ。

JESS高田馬場駅

➡職場で問題になっているのは、とにかく要員不足であるということ。2月の勤務発表時点で何人かが買い上げ状態になっている。原因は、JESSからJRに戻った人の補充がない。エルダーの先輩が退職しても補充しないということ。

ブロック長に聞くと「JESSのプロパーは賃金が安いので、買い上げしてやれば生活が楽になる」と問題点をごまかしているが若い子は「お金よりも休みが欲しい」と言っている。

➡目白駅の遠隔操作は問題点だらけである。例えば新幹線などの切符が改札機に詰まった場合などは、寝ている仲間を起こさざるを得ない。人を置かないことによって私たちの労働条件が悪化している。

新宿駅SCSP

➡プロパーで入ってくるのは若い世代が多い。業務はキチキチ。作業要員はギリギリである。

➡国労の仲間もいるが、お互いに日々の業務に追われ、集まる場が持てない状況である。何とかしたい。

➡池袋地区で約30年運動をやってきた。私たちの世代は戦争が終わって労働運動に目覚め、総評の中核になるまでになった。改めて労働運動って何だったのかを考えないと埋没していく。



JESS高田馬場駅

➡買い上げなど、若い子は頼まれたら断れない雰囲気がある。若い子が言っているのは、低賃金（1年で1,000円しか上がらない）、本体よりきつい労働条件に不満を持っている。社宅もない、寮もない、パスもないなど、あまりにもJR本体との格差がありすぎる。本来なら若い子と飲みに行つて話をしたいが、コロナを理由にやっていない。反省している。

➡一昨年JR東日本で若い子が700人辞めている。初任給が8,000円上がるが、そうしなければ人が集まらないのだと思う。自分が働き続けるために、もう少し頑張りたい。

OB

➡青梅市で少し暴れたいと思っている。市議会議員はほとんど自民党が牛耳っている。老人の集まる場をどんどん減らしている。何億円もの土地を購入しているのならコミュニティーバスを走らせろ。

➡退職したら車で日本一周しようと思ったが、コロナ禍で断念した。

池袋運輸区

➡要員が足りない場合はほかの運輸区へも行ってもらおう、と突然言われ実施されている。問題点を上げていきたい。

まとめ

多くの組合員がエルダー職場へ配属となっている中、要員不足問題をはじめ、プロパー社員との格差問題など、さまざまな問題が職場の中に渦巻いています。国労として職場の仲間との交流を大切にしながら、エルダー職場の労働条件改善に向けて、引き続き取り組みを強化していきましょう。

23春闘勝利 誰もが安心して働ける職場・暮らせる社会の実現を！

2月8日、としま産業振興プラザにおいて、東京全労協・北部労働組合協議会第31回定期総会が開催されました。

東京支部からは5名の仲間が参加し、前東京支部委員長の野佐根さんが副議長に就任しました。前任者の小池さん、伏見さんは今総会をもちまして退任しました。お二方、お疲れさまでした。

全労協23春闘パンフより抜粋

ここ30年間、日本の労働者の賃金が上がっていない中、23春闘は極めて重要な闘いとなっている。全労協は20,000円以上、時給150円以上の賃上げ要求を掲げるとともに、最低賃金1,500円の実現を目指して取り組みを進めている。

岸田政権は、国葬問題、旧統一協会問題、大臣の相次ぐ辞任、オリンピック疑惑など、多くの問題や疑惑があるにもかかわらず、その説明を一切国民に明らかにしようとはしていない。さらに、軍事費を対GDP比2%への増額や、敵基地攻撃を可能とした「安保関連3文書」を閣議決定し、戦争をするための準備を推し進めている。

23春闘は、岸田政権の改憲と軍拡路線に反対し、安心して暮らせる社会を実現するため、職場・地域から闘いをつくりだそう。

東京支部としては3月8日、春闘行動に取り組むこととなっている。（詳細は別途連絡）多くの組合員の参加をお願いします

